

## 7. 本時のねらい

見本の分解をすることで自分自身で製作手順や製作方法を見極め、様々な情報を手がかりにしなが  
各部品を製作することができる。

## 8. 展開案

階	ねらい	学習活動	評価と指導・援助、留意点
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物見本を見ることで、ユニットの出口が把握できる。</li> </ul>	①各班に実物見本とドライバを配布する。(道具係) 	○見通しの持てる導入の工夫 ・本時(本ユニット)の出口の姿が把握できるように、実物見本を示す。
追	<ul style="list-style-type: none"> <li>支柱プラグの構造を知り、製作の見通しを持つことができる。</li> <li>自己の見通しに立って、作業を進めようとすることができる。</li> <li>作業場が混んでいる場合には、状況に応じて作業手順を入れ替えるなど、自分自身で判断して効率の良い製作活動ができる。</li> <li>各種情報を得ながら、自分の力で課題解決をすることができる。</li> <li>自分自身の技能を振り返り、自己評価することができる。</li> </ul>	②各班一斉に見本を分解し、構造を把握する。 ③自分がどの部品から製作を始めるか、学習プリントに見通し(自己課題)を書く。 ④自己の見通しにしたがって自己課題別に製作を進める。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>平行コードの加工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビニル被覆除去</li> <li>はんだづけ</li> <li>ソケット取り付け</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>掛図</li> <li>デジタルコンテンツ</li> <li>教科書 p 63</li> <li>資料集 p</li> <li>仲間、教師</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>金属パイプの切断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>けがき</li> <li>弓のこで切断</li> <li>やすりで研磨</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>掛図</li> <li>デジタルコンテンツ</li> <li>教科書 p 49</li> <li>p 51</li> <li>p 53</li> <li>資料集 p</li> <li>仲間、教師</li> </ul> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>組み立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金属パイプに平行コードを通しソケットに金属パイプを取り付ける。</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実物見本</li> <li>掛図</li> <li>デジタルコンテンツ</li> <li>仲間、教師</li> </ul> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>おねじ切り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やすりで面取り</li> <li>おねじ切り</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>掛図</li> <li>デジタルコンテンツ</li> <li>教科書 p 53</li> <li>p 59</li> <li>資料集 p</li> <li>仲間、教師</li> </ul> </div>	○課題把握の評価(plan) ・本時(本ユニット)の出口の姿を想像できているか、意図的指名により把握する。不十分であれば補足説明する。 ・見通しを立てるに至った生徒の思考を問う。 ○課題解決過程での評価(do) ・活動につまずきが生じた場合、生徒の活動は停滞することになるため、生徒自身がつまずきを意識するはずである。そのつまずきに対応するための指導・援助の手だてを、本時は情報提示という形で行う。 ※仲間や教師の援助を自分から求める姿は主体的に学ぶ姿勢と捉える ○活動の出口での評価(see) ・本時は、各製作段階での技能評価を生徒自身が自己評価する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>平行コードの加工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実物標本との見た目の比較</li> <li>ソケットへ取り付けられるか</li> </ul> <p>金属パイプの切断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画通りの長さか計る</li> </ul> <p>おねじ切り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナットがはまるか確かめる。</li> </ul> <p>組み立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスターで絶縁試験をする。</li> </ul> </div>
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び方を振り返るとともに、新たな見通しを持ち、次時の活動にスムーズに入るための準備(構想)ができる。</li> </ul>	⑤本時の学習を振り返り、自己評価をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>部品は正確に製作できたか。(技能)</li> <li>どのような情報を手がかりに課題解決をしたか。(学び方)</li> <li>次時の作業を決定する。(見通し)</li> </ul> ⑥片づけ	○本時の学び方を振り返る自己評価 ・技能面の評価だけでなく、本時、自分がどのような学び方をしたのかが意識できるような評価プリント。次時の見通しも書く。 ・全員が仕事をするように促す。